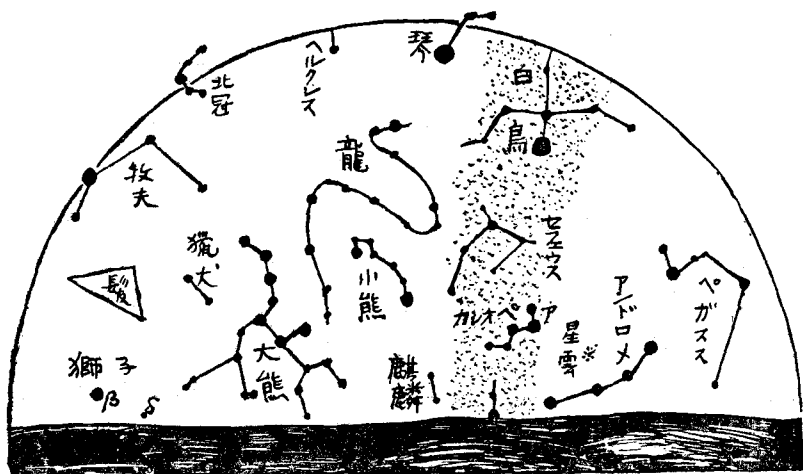




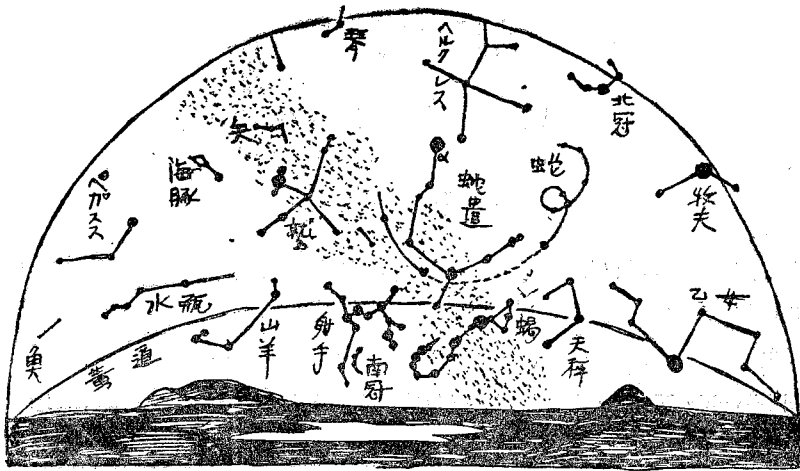
八月の星の空(北天)

恒星界

8月21日は舊暦の7月7日に當り、牽牛織女の七夕祭である。現今は此の星祭も新暦で行ふ様になつたが、月の位相の上から云つても舊暦で行ふ方が昔の傳説に従つてよい様だし、尙出來ればもつき盛大に、且つ意義ある星祭にしたいと云ふ慾も出る。兎に角、最も星に親しみ易い月であるから興味ある天體の御案内をする事にしやう。蚊遣り煙ぶる涼み臺で、星を愛づるのも又楽しい事でないか。

乙女座が星、有名な連星、共に大體3等半の光度、194年の週期で廻轉、2時で見える。蝸座β星は2等と4等との二重星。同星座のM80は星雲狀の小型で明るい星團である。同じくM4は散開星團、此星座の主星アンタレスは1等の赤星、三秒の距離に7等の綠星がある。射手座のM22は球狀星團にて同星座ファイ星の北にあり、肉眼にてもよくわかる。同じくM8も肉眼で見え、小望遠鏡で美事な散開星團であり且つその中に無定形星雲もある、尙此の附近からム星の近傍にかけて無數の星團がある。兎に角銀河中でも特に星の多い處で小望遠鏡でもなかなか興味がつきぬ。蛇遣座30星の西にM10がある、肉眼でも見える球狀星團で、その北西に同じく球狀星團のM12があり双眼鏡で見える、M11は桶座β星の南肉眼でもかすかに見え双眼鏡なれば十分、3時なれば澤山の星が見える。北冠座R星は興味深い變光星である。同座α星は連星で5等の黃星と6等の青星とが5秒の距離に並ぶ。鷲座主星は七夕の牽牛で名高く、琴座主星は織女β星は變光星(前號參照)β星とα星との間に有名な輪狀星雲がある、輪の直徑90秒3時で見得る。少し飛んで大熊座を見るさそ星は有名な連星で、クシ星も4等と5等の連星である。β星の近くに遊星狀星雲あり、構造複雑で梟形なしてゐる。

今月12日の夜即ち13日朝2時頃からペルセウス流星雨が見られる。可なりよく飛ぶから、單に見る丈でもなかなか奇麗である。此の夜を中心に関前後三晩は見られる。輻射點はペルセウスが星の北數度の處にある。



八月の星の空(南天)

太 陽 系

太陽、中旬まで獅子宮にあるが23日に處女宮に侵入する。星座は上旬は蟹座で中旬から獅子座に入る。

月	満月	2日午前0時31分	新月	15日午後10時49分
		31日午前11時34分	上弦	23日午後5時21分
	下弦	9日午前2時24分		

水星、月始め蟹座の西端にあり従つて曉の星、順行して中旬には獅子座の西端まで進むも其以後は太陽に近く、觀望出来ぬ。

金星、宵の星、獅子座の西端より東端まで順行する。10日に獅子座α星の北側を通過する。次第に太陽より離れ月末には太陽没後1時間にて没す。

火星、夜半出現、牡牛座アルデバランの北を順行、10日3時12分月さ合。

木星、牡羊座にあり光度正0.5等にて輝く。次第に地球へ接近するので小望遠鏡での觀望にも面白い。8日午後3時9分月さ合。

土星、何んぞ云つても宵の遊星界の大立物である。蝎α星の北東に位して、光度1正0.6等、視直径15秒。月半ばまで逆行するも17日午後4時留さなりそれより順行に移る。54日午後7時30分月さ合。

天王星、魚座44星の近くに位し、光度6.1等、逆行中なり。

海王星、獅子座α星に近いが、52日太陽さ合、従つて觀望不能。